

FMアップルウェーブ 第102回放送番組審議会

開催日時	平成29年3月4日(土) 12:00~13:00
開催場所	土手町コミュニティパーク地域交流室(弘前市土手町)
出席委員	委員長 石岡 徹、副委員長 鳴海 清彦、 委員 佐藤 浩之、渋谷 拓弥、太田 眞理子、高村 智子、大西 晶子、樫山 史子
会社側出席者	専務取締役:一戸 勝美、取締役:新戸部 洋輔、南 直之進 放送部統括マネージャー:花田 由香子 チーフ:玉田雅規
議題	(1)番組に対する意見要望 (2)次回開催日について 4月22日(土)
議事の概要	<p>○ 各委員が質問と意見や気が付いた点を述べる形で議事が進行した。</p> <p>1) 課題番組 『自殺防止対策啓蒙番組いのちによりそうゲートキーパー』 (平成28年12月17日18:00~19:00 放送)</p> <ol style="list-style-type: none">① 自殺を考えている人ではなく、その周りの人に向けての番組。ターゲットとしているリスナーが誰なのかをもっと前面に打ち出したほうが良い。落ち着いた話し方ではあるが、全体的に暗く、元気がない印象。さまざまな相談窓口があることが分かったのは良かった。② ターゲットとしているのがどんな人なのか、番組を繰り返し聴いていてだんだん分かった。スピードが速く、どんどん情報が紹介されていくので、何度も聴いてやっと理解できた部分もあった。最後にまとめがあったのは良い。誰に向けての番組なのかを冒頭にしっかり打ち出していればわかりやすかったのでは。③ 今までになかったテーマの番組。どの視点で番組を作るのかによって性質が換わるので難しい。「友達の友達は友達じゃない」というのは名言。SNSからのいじめや、そこからの自殺につながることの怖さを実感した。昔はガキ大将がいていじめも少なかった。そういった視点からの番組も作ってみてはどうか。④ 複数の専門家から自殺に関する情報を得ていたのはいろんな切り口があることがわかって良い。「いじめ」「健康」「コミュニケーション」などさまざまな角度から自殺につながる問題に触れていた。まちづくりの点からも「傾聴」というのは大事。「話を聞いてあげるだけ」でもとても意味のあることを実感した。⑤ SNSや健康など、様々な観点から自殺につながり、その問題について紹介していてよかった。特番にとどめておくのではなく、相談窓口の紹介など、継続してもよい番組ではないか。雰囲気が高く、暗い印象。もう少し軽く聴ける雰囲気でもよいのでは。街の人のいろんな意見があったのが良かった。⑥ 重いテーマだが町の人々の声や携わっている方たちを取材し、聞き手に徹して伝えているのが良かった。ゲートキーパーの役割や必要性、誰でもなれるということ、相談窓口がたくさんあることを繰り返し伝えられていた。悩んでいる人を支援する環境の必要性を考えた。⑦ どうすれば自殺を防ぐことができるのかを考える番組。自殺者の数などの数字は必要だったのか疑問に感じた。子どもたちの自殺に関しては大人がもっとしっかりしていかなければならない。地域のあり方も考えなければならぬと感じた。そういった視点から伝える番組作りをしてほしい。⑧ 1回目に聴いたときはぼんやりとして何を言いたかったのかわかりづらかったが、もう一度聞いたときに、1時間の番組の中で、構成がかなり練られて作られていると感じた。内容としては繰り返し放送してほしい。実際、携帯電話が普及してから子どもたちの間にトラブルが増えている。スマホを持たせる際のルールや家庭での取り扱い方も伝えていかなければならぬと感じた。 <p>【審議機関の答申または改善】 ・今回の課題点や改善点をふまえ、自殺をテーマにした番組は継続してほしい。</p> <p>【審議機関の答申または改善意見の公表】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 議事録を本社に配備し、社内各部署に配布2) FMアップルウェーブのホームページに掲載